

麥	釜 麥 (標)		54	54	50	50	40	40	36	0.60
	本	均								
中間性大麥	異型四五號	46	34.6	32.0	29.8	28.2	24.5	19.3	15.3	0.50
	異型十五號	44		46	40	40	29	22	24	0.60
	エツクソドアルフア	44		32	42	36	30	27	18	0.55
	ヌルボリ	41		33	45	38	35	30	17	0.55
	ボムボリ	37		28	34	25	27	26	17	0.55
平均		42.4		37.8	41.4	33.6	29.8	25.2	18.6	0.55

柿の花芽分化に就て (豫報)

農林省園藝試験場 蜂 巢 統 三

柿の花芽は新梢の葉腋に生ずるものであるから前年のうちに之を肉眼で認めることは出来ない。けれども、かなり早くから出来て居るものである。江口氏(一九二八)は大阪府下の富有柿に就て八月廿八日に「萼片の初生突起を生じた花芽を認め得た」と報じて居る。

余は興津園藝試験場に栽植してある廿五年生の富有柿を材料として一九二九年に開花する花芽の發生經過を観察した。

柿の花芽分化に就て (豫報)

翌春伸長する芽は前年八月末にはかなり大きくなつて居る。第一、第二鱗片の腋部には必ず一個宛の大きな芽がある。翌年、結果枝になる芽では、外から六―七枚目より十四―十五枚目位までの、緊密に重り合つて居る鱗片 腋部に、押しつけられて扁平になつた花芽がある。

結果枝にならない芽でも強大なものには、花芽の現れたと同じ位置に、やはり押しつけられて扁平になつた芽がある。之は形成される時期、及、その位置等よりして花芽と起原の同じ芽であることが分る。

鱗片の腋部に現れる花芽、及、之と起原の同じ芽は、その初期に於ては何れも先の圓い蒲鉾状をして居る。それが漸次に、その兩端及中央が高まつて先の三つになつた山になる。この時はまだ花芽の分化は起つて居ないのである。

七月廿一日頃になるこ、花芽になるものは中央の山が大きくなり、その頂が平になる。然るに、花芽にならない芽に於ては中央の山はそのまゝで、兩端の山が伸長する。花芽では兩端の山は苞を形成する。

頂が平坦になつた中央の山は七月廿八日頃には、更に又、その兩端が高まつて来る。前後の縁も多少高まる。この前後、左右の高まりが萼片の極初期のものである。漸次に萼片は明になり、八月十一日には、その内部即生長圓錐體の頂は平坦か或は中央が僅に凹んで居る。この状態で越冬するものであるが、この時期に達しない花芽が澤山ある。これらは十月中旬まで成長を繼續するが、尙この時期に達しない花芽がかなりある。それ等はその儘で越冬する。

三月九日頃まで、花芽は外形的に殆ど變化はない。僅に基部にある小形の花芽の苞かのびる位である。新梢の葉腋に現れる花芽、及、之と起原の同じ芽の上部葉腋に、何等分化して居ない蒲鉾状をした突起が現れ始めた。

花芽を含む芽は三月十六日には僅に開舒しはじめた。花芽は花瓣になる高まりが稍明になつて来た。

これより開花までは花芽及之を含む芽の生長は著しいもので、三月廿三日には花瓣の初生突起が明に四に分れる。基部にある小形の花芽は僅に後れて居る。

三月卅日には萼片は伸びて内部を包んで居る。横断して見るに雄蕊の初生突起が見られる。基部の小形花芽は苞や萼片が僅に伸長して居るが分化の程度は進んで居ない。依然として花瓣が出来始めた状態に止つて居る。

四月六日には雄蕊に圍れた内部が更に四つの高まりになり中央の凹所を圍む。之は雄蕊の柱頭になる。基部の小形花芽は變化して居ない。

四月十日には雌蕊の中央の凹所が深くなり四つの心皮がはつきりして來た。四月十七日には新梢は伸びて、花芽は肉眼で見える事が出来る。

四月廿日には胚珠の初生突起が現れて居る。三月末から分化成長しない基部の小形花芽は枯死し、半数位は脱落して居る。

四月卅日には新梢の先端はごまつて居る。花芽には苞の残つて居るものと残つて居ないものと半々位、基部の小形花芽は全部脱落し終つた。

五月三日、普通は正常花芽の上部葉腋に、時には下部中間及正常花芽のない新梢の葉腋に、苞が著しく大きく内部をすつかり包んで居て、一見花芽とは思へない様な花芽が初て肉眼で見られた。形も小さく分化の程度は正常花芽の四月十四日頃のものに相當して居る。柿の花芽には通常苞が二枚あるものであるが、このものにあつては小さな葉のやうなものが數枚あることは珍しくない。正常花は五月廿六日頃開花し始めたのに、このものは六月八日頃初て開花した。

早春の候から伸長を始めた、新梢は四月末には、その先端は止つて居るが、六月中旬以後になつて再びその先端の芽が伸長し始めるものがある。早いものは六月末から七月初にはその伸長を停止する。この二度伸びした枝梢もその伸長が早く停止したものはその先端の芽の内部に花芽を有す。その花芽は正常の位置に出来る花芽より分化が遅れて居る。即正常の位置の花芽に於て七月廿一日に初めて見た。花芽の初期徴候はこのものでは八月十一日に見られた。又、八月廿五日には萼片の分化が僅に始まつて居る。

九月八日には萼片は明になり、正常の位置の花芽が八月十一日に達した状態になつて居る。

すべて果樹の花芽はその位置等の異なるに従つて分化に遅速のあるものであるが、柿に於ては殊に甚しい。柿の花芽は分化が進んで居るものでも、萼片が漸く分化した時期及この時期に達しないものも澤山あるといふ状態で見られるものであるから、翌年三月中旬になつて、まだ、分化の早かつたものが前年七月末に達したと同じ時期のものがあるといふ有様である。

一般に同一の種枝については、基部の芽に含まれる花芽は頂芽に含まれる花芽より後れて居る。又一つの芽に含まれて居る。連續的に現れる花芽は基部より上部のものは、中央のものより後れて居る。

柿の新梢の腋芽には、新梢の伸長したその年の内に生長する運命のものゝ、翌年生長する運命のものゝある。前者は前年の夏から出来て居り、之を含む芽は肥大して居る。年内に生長する運命の腋芽は、翌年結果枝になる芽に於ては花芽であるが、然らざる芽に於ては葉芽である。

花芽は新梢の伸長する年のうちに、生長を繼續して果實になるが、葉芽となるものは、翌春になつてその上部、葉腋

に出るが腋芽の生長のみに止留せられて、完全の芽さならず終るのが普通である。

翌年伸長する運命の芽は新梢の伸びる年の三月頃から出来るものであるが、枝梢の先にあるために、勢力旺盛にしてその下部葉腋にある、その年のうちに伸びる運命の芽を抑制し、己がその年のうちに伸長することが澤山ある。

花は枝に相當するものである。即ち花芽は枝梢になる芽にあたる。枝梢になる柿の芽を見るに第一、第二鱗片の腋部には必ず一個づゝの大きな芽がある。第一、第二鱗片は花芽に於ては苞に當る。

雌花に於ては普通苞の腋部に更に一個づゝの雄花が出来、一つの花軸の上に三個の花がついて居る。

富有、會津身不知のやうに一つの花軸の上に一つの花軸がつくと思はれるものでも、之を良く見ると、苞の腋部に小さな突起を見ることが出来る。之は富有や會津身不知では僅に肉眼で見られる程度のもので終るが、品種によつては花芽になるものがある。

藤八や夫婦柿の雌花には苞の一方の腋部にも一つの花を生ずることが良く見られる。

次郎に於て、中央の雌花さなるべきものが葉芽になり、苞の腋部に各一個づゝの雌花を生じて居るもの、苞の一方の腋芽が雌花さなり、中央の正常の雌花になるべきものが反つて葉芽になつて居るもの等を見た。

正月に於て、雌花の苞の一方の腋部に雌花のあるもの、兩全花のあるもの、雄花のあるもの等が稀に見られる。禪寺丸に於て雌花の苞の兩腋部に各一個づゝの雄花の生じて居るのを見た。

之等を總括して考へると柿の花芽は枝梢になる芽と同様の花序を示すものであり、新梢の葉腋に單獨に現れると思はれる雌花も亦、正常の雄花の様に三つの花が一つの花軸について居る様なものから導かれたことが容易に考へられる。